

食事パターンと循環器疾患に関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法 研究デザイン	調査項目			結果		
					食事調査方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
1	Okamoto Kazushi, et al (2006)	愛知県名古屋市	症例、201人(30-79歳、平均59.0歳)、住民対照、201人(各症例者±2歳) 女性6割	症例対照研究	食物摂取頻度調査 (FFQ)	対照男女201人を対象に、抽出された食事パターン 大豆製品豊富パターンは大豆由来食品の高摂取に特徴づけられる。	くも膜下出血発症	大豆製品豊富パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が高い群に比べ最も高い群では、くも膜下出血発症リスクが54%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.75 (0.39-1.78) 第3四分位 0.66 (0.24-1.12) 第4四分位 0.46 (0.18-0.88) 傾向性P値 = 0.01	年齢 性別 地域 喫煙状況 飲酒状況 高血圧既往歴 くも膜下出血家族歴 教育歴	食事パターン くも膜下出血 成年男女
2	Shimazu Taichi, et al (2007)	神奈川県大崎市	大崎国民健康保険コホート参加者 40-79歳、男女、40,547人	前向き研究 追跡期間7年	食物摂取頻度調査 (FFQ)	大崎国民健康保険コホート参加者の男女40,547人を対象に、40食品に基づき抽出された食事パターン 日本食パターンは、大豆製品、魚、海藻類、野菜、果物、緑茶の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 15.1%)	循環器疾患死亡	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が高い群に比べ最も高い群では、循環器疾患死亡リスクが26%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.77 (0.63-0.94) 第3四分位 0.71 (0.58-0.88) 第4四分位 0.74 (0.59-0.91) 傾向性P値 = 0.004	年齢 性別 喫煙状況 歩行時間 教育歴 総エネルギー摂取量 BMI 高血圧既往歴	食事パターン 循環器疾患死亡 冠動脈性心疾患死亡 脳卒中死亡 脳梗塞死亡 脳出血死亡 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法	調査項目		結果			
				食事調査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード	
						動物性食品パターンは、多様な動物性食品(牛肉、豚肉、ハム、ソーセージ、鶏肉、肝臓、バター)、コーヒー、アルコール飲料の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 6.4%)		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、循環器疾患死亡リスクが1.2倍高かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.93 (0.76-1.13) 第3四分位 1.14 (0.93-1.39) 第4四分位 1.24 (1.00-1.54) 傾向性P値 = 0.02		
						DFA食事パターンは、乳製品(牛乳、ヨーグルト)、マーガリン、果物、野菜(にんじん、カボチャ、トマト)の高摂取と米飯、みそ汁、アルコール飲料の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 4.8%)		DFA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による循環器疾患死亡リスクの差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.18 (0.96-1.45) 第3四分位 1.10 (0.87-1.38) 第4四分位 0.89 (0.69-1.14) 傾向性P値 = 0.19		
							冠動脈性心疾患死亡 (coronary heart disease)	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による冠動脈性心疾患死亡リスクの差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.86 (0.57-1.29) 第3四分位 0.71 (0.46-1.11) 第4四分位 0.82 (0.52-1.29) 傾向性P値 = 0.29		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による冠動脈性心疾 患死亡リスクの差は見られな かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.10 (0.72-1.70) 第3四分位 1.39 (0.89-2.16) 第4四分位 1.50 (0.95-2.37) 傾向性P値 = 0.05		
						脳卒中死亡 (total stroke)		日本食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が高い群に比べ 最も高い群では、脳卒中死亡リ スクが36%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.71 (0.54-0.92) 第3四分位 0.67 (0.51-0.88) 第4四分位 0.64 (0.48-0.86) 傾向性P値 = 0.004		
								動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による脳卒中死亡リス クの差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.89 (0.69-1.15) 第3四分位 1.11 (0.85-1.45) 第4四分位 1.00 (0.74-1.35) 傾向性P値 = 0.66		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法	調査項目		結果			
				研究 デザイン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							脳梗塞死亡 (cerebral infarction)	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、脳梗塞死亡リ スクが40%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.89 (0.59-1.36) 第3四分位 0.73 (0.47-1.15) 第4四分位 0.60 (0.37-0.99) 傾向性P値 = 0.03		
								動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による脳梗塞死亡リス クの差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.03 (0.68-1.56) 第3四分位 1.09 (0.69-1.71) 第4四分位 1.14 (0.71-1.85) 傾向性P値 = 0.57		
							脳出血死亡 (intracerebral hemorrhage)	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、脳出血死亡リ スクが40%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.63 (0.39-1.02) 第3四分位 0.52 (0.31-0.88) 第4四分位 0.60 (0.36-1.03) 傾向性P値 = 0.04		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による脳出血死亡リス クの差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.71 (0.44-1.16) 第3四分位 0.89 (0.54-1.46) 第4四分位 0.86 (0.50-1.47) 傾向性P値 = 0.71		
3	Oba Shino, et al (2009)	岐阜県高 山市	高山スタ ディ参加者 35歳以上、 29,079人 (男性 13,355人、 女性 15,724人)	前向 き研 究 追跡 期間7 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	食事バランスガイド遵守得点	循環器疾患死亡	得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による循環器疾患死 亡リスクに差は見られなかつ た。 ハザード比 (95%信頼区間): 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.90 (0.64-1.25) 第3四分位 0.86 (0.62-1.20) 第4四分位 1.06 (0.78-1.45) 傾向性P値=0.70 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.95 (0.71-1.28) 第3四分位 0.79 (0.58-1.08) 第4四分位 0.76 (0.56-1.04) 傾向性P値=0.05	年齢 BMI 喫煙状況 身体活動量 教育歴 高血圧既往 糖尿病既往 閉経状況	食事バランス ガイド 循環器疾患死 亡 成年男女

調査方法						調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法 研究デザイン	食事調査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
4	Maruyama (2013)	全国35地 域	JACC研究 参加者 40-79歳、 64,037人 (男性 26,598人、 女性 37,439人)	前向 き研 究 追跡 期間 中央 値 12.6 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JACC研究参加者の男性26,598人、 女性37,439人を対象に、40 食品に 基づき男女別に抽出された食事パ ターン 野菜パターンは、新鮮な野菜、きの こ類、いも類、海藻類、豆腐、果物 の高摂取に特徴づけられる。(説明 率: 男性11.9%、女性10.7%)	循環器疾患死亡	野菜パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、男性では得点による循環 器疾患死亡リスクに差は見ら れなかったものの、女性では、 最も得点が低い群に比べ最も 高い群では、リスクが18%低 かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.95 (0.79-1.14) 第3五分位 0.82 (0.68-1.00) 第4五分位 0.97 (0.81-1.17) 第5五分位 0.93 (0.78-1.13) 傾向性P値 = 0.73 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.95 (0.78-1.15) 第3五分位 0.89 (0.73-1.08) 第4五分位 0.88 (0.72-1.08) 第5五分位 0.82 (0.67-1.00) 傾向性P値 = 0.04	年齢 BMI 喫煙状況 歩行時間 運動時間 教育歴 自覚的メンタルストレス 睡眠時間 総エネルギー摂取量 高血圧既往歴 糖尿病既往歴	食事パターン 循環器疾患死 亡 脳卒中死亡 冠動脈性心疾 患死亡 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法	調査項目		結果			
				食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード	
						動物性食品パターンは、肉、魚介類、揚げ物・てんぷらの高摂取に特徴づけられる。(説明率: 男性7.0%、女性7.0%)		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による循環器疾患死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.79 (0.67-0.94) 第3五分位 0.81 (0.68-0.97) 第4五分位 0.90 (0.75-1.07) 第5五分位 0.88 (0.73-1.05) 傾向性P値 = 0.50 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.93 (0.78-1.11) 第3五分位 0.98 (0.81-1.18) 第4五分位 1.01 (0.83-1.23) 第5五分位 1.08 (0.87-1.34) 傾向性P値 = 0.42		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法	調査項目		結果			
				食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード	
						乳製品パターンは、牛乳、乳製品、 バター、マーガリン、果物、コー ヒー、お茶の高摂取に特徴づけら れる。(説明率: 男性5.6%、女性6.0%)		乳製品パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、男性では得点による循環 器疾患死亡リスクに差は見ら れなかったものの、女性では、 最も得点が低い群に比べ最も 高い群では、リスクが24%低 かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.00 (0.84-1.19) 第3五分位 1.16 (0.98-1.38) 第4五分位 0.99 (0.82-1.19) 第5五分位 0.89 (0.74-1.08) 傾向性P値 = 0.23 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.86 (0.73-1.02) 第3五分位 0.90 (0.75-1.08) 第4五分位 0.79 (0.65-0.96) 第5五分位 0.76 (0.61-0.94) 傾向性P値 = 0.01		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							脳卒中死亡 (stroke)	野菜パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による脳卒中死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.11 (0.83-1.49) 第3五分位 1.07 (0.80-1.43) 第4五分位 1.19 (0.90-1.58) 第5五分位 1.13 (0.85-1.51) 傾向性P値 = 0.39 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.93 (0.70-1.24) 第3五分位 0.80 (0.59-1.08) 第4五分位 0.89 (0.66-1.19) 第5五分位 0.91 (0.68-1.22) 傾向性P値 = 0.57 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による脳卒中死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.79 (0.61-1.03) 第3五分位 0.84 (0.65-1.09) 第4五分位 0.93 (0.71-1.21) 第5五分位 0.97 (0.74-1.27) 傾向性P値 = 0.75 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.91 (0.70-1.18) 第3五分位 0.98 (0.75-1.30) 第4五分位 0.87 (0.64-1.18) 第5五分位 1.03 (0.75-1.41) 傾向性P値 = 0.95		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							冠動脈性心疾患 死亡 (coronary heart disease)	乳製品パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、脳卒中死亡リ スクが男性で35%、女性で 30%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.81 (0.63-1.04) 第3五分位 0.98 (0.77-1.25) 第4五分位 0.85 (0.65-1.10) 第5五分位 0.65 (0.49-0.86) 傾向性P値 = 0.01 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.79 (0.62-1.01) 第3五分位 0.68 (0.51-0.89) 第4五分位 0.77 (0.58-1.02) 第5五分位 0.70 (0.51-0.97) 傾向性P値 = 0.02 野菜パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による冠動脈性心疾 患死亡リスクに差は見られな かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.81 (0.56-1.19) 第3五分位 0.77 (0.53-1.14) 第4五分位 0.79 (0.54-1.16) 第5五分位 0.73 (0.49-1.08) 傾向性P値 = 0.15 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.87 (0.57-1.33) 第3五分位 0.88 (0.57-1.33) 第4五分位 0.66 (0.42-1.05) 第5五分位 0.67 (0.43-1.06) 傾向性P値 = 0.05		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による冠動脈性心疾 患死亡リスクに差は見られな かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.73 (0.51-1.06) 第3五分位 0.89 (0.63-1.27) 第4五分位 0.72 (0.49-1.06) 第5五分位 0.72 (0.48-1.08) 傾向性P値 = 0.14 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.85 (0.57-1.26) 第3五分位 0.93 (0.61-1.41) 第4五分位 0.96 (0.61-1.50) 第5五分位 0.73 (0.42-1.26) 傾向性P値 = 0.38 乳製品パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による冠動脈性心疾 患死亡リスクに差は見られな かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.46 (1.00-2.13) 第3五分位 1.49 (1.01-2.20) 第4五分位 1.15 (0.76-1.76) 第5五分位 1.18 (0.77-1.80) 傾向性P値 = 0.94 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.57 (0.37-0.87) 第3五分位 1.06 (0.72-1.56) 第4五分位 0.78 (0.50-1.21) 第5五分位 0.86 (0.53-1.38) 傾向性P値 = 0.80		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法	調査項目			結果		キーワード
				研究 デザイン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
5	Li Ying, et al (2014)	長野県南 佐久郡	SAKUCES Sプロジェクト参加者 20-79歳 (平均53.3 歳)、男女、 12,883人 (男性 4,939人、 女性7,944 人)	前向 き研 究 追跡 期間 10年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	SAKUCESプロジェクト参加者の 12,883人を対象に、16食品に基づ きクラスター分析により抽出された 食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、海 藻類、牛乳、魚、豆類の高摂取に特 徴づけられる。 伝統食パターンは、味噌、漬物、米 飯の高摂取と野菜、牛乳、肉の低 摂取に特徴づけられる。 欧米食パターンは、脂肪と肉の高 摂取に特徴づけられる。	循環器疾患死亡	健康食パターン ハザード比 (95%信頼区間) 1.00 (基準) 伝統食パターン 健康食パターンに比べ、循環 器疾患死亡のリスクが1.5倍高 かった。 ハザード比 (95%信頼区間) vs 健康食パターン 1.53 (1.12-2.09) P=0.007 欧米食パターン 健康食パターンに比べ、循環 器疾患死亡のリスクが2.6倍高 かった。 ハザード比 (95%信頼区間) vs 健康食パターン 2.62 (1.46-4.68) P=0.001	年齢 性別 喫煙状況 飲酒状況 身体活動量 作業強度 睡眠時間 BMI 収縮期血圧 総コレステロール HDLコレステロール 空腹時血糖値	食事パターン 循環器疾患死 亡
6	Kurotani Kayo, et al (2016)	全国11保 健所	JPHC研究 参加者 45-75歳、 79,594人 (男性 36,624人、 女性 42,970人)	前向 き研 究 平均 追跡 期間 14.9 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	食事バランスガイド遵守得点	循環器疾患死亡	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、循環器疾患死亡リスクが16%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.97 (0.87-1.07) 第3四分位 0.86 (0.77-0.97) 第4四分位 0.84 (0.73-0.96) 食事バランスガイド遵守得点が10点増加する毎の ハザード比 (95%信頼区間): 0.93 (0.89-0.98) 傾向性P値=0.005	年齢 性別 地域 BMI 喫煙状況 総身体活動量 高血圧既往歴 糖尿病既往歴 脂質異常症既往歴 コーヒー摂取 緑茶摂取 職業	食事バランス ガイド 循環器疾患死 亡 心疾患死亡 脳血管疾患死 亡 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法	調査項目		結果			
				研究デザイン	食事調査方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							心疾患死亡 (heart disease mortality)	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による心疾患死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.97 (0.84-1.13) 第3四分位 0.92 (0.79-1.08) 第4四分位 0.84 (0.70-1.02)		
								食事バランスガイド遵守得点が10点増加する毎の ハザード比 (95%信頼区間): 0.96 (0.90-1.02) 傾向性P値=0.21		
							脳血管疾患死亡 (cerebrovascular disease mortality)	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、脳血管疾患死亡リスクが22%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.97 (0.82-1.15) 第3四分位 0.81 (0.68-0.98) 第4四分位 0.78 (0.63-0.97)		
								食事バランスガイド遵守得点が10点増加する毎の ハザード比 (95%信頼区間): 0.89 (0.82-0.95) 傾向性P値=0.002		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	結果		キーワード
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目		利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	
7	Nanri Akiko, et al (2017)	全国11保 健所管内	JPHC研究 参加者 45-74歳、 81,720人 (男性 36,737人、 女性 44,983人)	前向 き研 究 平均 追跡 期間 14.8 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JPHC研究参加者の男性47,408人、 女性54,222人を対象に、48食品群 に基づき、男女別に抽出された食 事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、大 豆製品、いも類、海藻類、きのこ 類、魚(脂の多い魚、魚以外の魚介 類、魚加工品)の高摂取に特徴づ けられる。 欧米食パターンは、肉(豚肉、牛 肉)、加工肉、パン、乳製品、コー ヒー、紅茶、ソフトドリンク、ドレッシ ング、ソース、マヨネーズの高摂取 に特徴づけられる。 伝統食パターンは、鮭、塩蔵魚、脂 の多い魚、魚以外の魚介類、漬物 の高摂取に特徴づけられる。	循環器疾患死亡	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が高い群に比べ 最も高い群では、循環器疾患 死亡リスクが28%低かった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.85(0.77-0.95) 第3四分位 0.77(0.70-0.86) 第4四分位 0.72(0.64-0.79) 傾向性P値 <0.001 欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が高い群に比べ 最も高い群では、循環器疾患 死亡リスクが22%低かった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.98(0.89-1.07) 第3四分位 0.85(0.76-0.94) 第4四分位 0.88(0.78-0.99) 傾向性P値 = 0.003 伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による循環器疾患死 亡リスクに差は見られなかつ た。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.94(0.84-1.05) 第3四分位 0.88(0.78-0.99) 第4四分位 0.93(0.83-1.05) 傾向性P値 = 0.23	年齢 性別 地域 BMI 喫煙状況 総身体活動量 糖尿病既往歴 高血圧既往歴 総エネルギー摂取量	食事パターン 循環器疾患死 亡 心疾患死亡 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							心疾患死亡 (heart disease mortality)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、心疾患死亡リ スクが25%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.77 (0.67-0.90) 第3四分位 0.78 (0.67-0.90) 第4四分位 0.75 (0.66-0.87) 傾向性P値 <0.001		
								欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、心疾患死亡リ スクが12%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.03 (0.90-1.17) 第3四分位 0.88 (0.76-1.02) 第4四分位 0.88 (0.74-1.04) 傾向性P値 = 0.042		
								伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による心疾患死亡リス クに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.91 (0.77-1.07) 第3四分位 0.97 (0.83-1.15) 第4四分位 0.88 (0.74-1.04) 傾向性P値 = 0.22		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法	調査項目		結果			
				食事調査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に 関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード	
							脳血管疾患死亡 (cerebrovascular disease)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、最も得点が低い群に比べ 最も高い群では、脳血管疾患 死亡リスクが37%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.80-1.11) 第3四分位 0.72 (0.61-0.85) 第4四分位 0.63 (0.53-0.75) 傾向性P値 <0.001		
								欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による脳血管疾患死 亡リスクに差は見られなかつ た。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.86 (0.73-0.996) 第3四分位 0.81 (0.68-0.96) 第4四分位 0.88 (0.73-1.07) 傾向性P値 = 0.06		
								伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分 け、ハザード比を算出した結 果、得点による脳血管疾患死 亡リスクに差は見られなかつ た。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.91 (0.76-1.10) 第3四分位 0.72 (0.59-0.88) 第4四分位 0.92 (0.76-1.11) 傾向性P値 = 0.27		